

### 輝け！オラホの公民館大賞



発行  
浮田地区コミュニティ会議  
電話&FAX  
0198-42-1681



中内

毒沢



石宮

#### タイトル画説明

鳴声の元、美しい色合いのこの冬、ウツルヒノキの葉が、緑の葉つばち。絵・文(実)

## 輝け！オラホの公民館大賞

12月1日から始まったイルミネーションの点灯、浮田振興センター管内7つの公民館が参加して行われました。

初めての企画で戸惑った公民館が多かったようですが、どの公民館もアイデア満載、工夫いっぱい、イルミネーションに彩られ、幻想的な世界を作り上げていました。なかにはソーラーLEDの活用やプロジェクトターライト(投影ランプ)を駆使した、美しいアート空間が生まれていたのは驚きです。  
大賞に輝いたのは「毒沢公民館」、僅差で「中内公

## 伐木・枝打ち作業



令和5年11月25日、煙突倶楽部メンバーによる伐木・枝打ち作業が行われました。今回は三京口バス停から中内へ向かう中内浮田線の下り坂山側面。

当日は雪の舞う寒い中、約三百mの道路に倒れかかっていたり傾いている木を順番に処理しましたが、枝先にはつるが絡んでいて、難しい作業の場面もありました。

地域内には道路に限らず、倒木しそうな場所があります。

すぐ解決できるものではありませんが、引き続き対応していく必要を感じました。(賢)

民館「石宮公民館」と続きます。(12月21日に結いの里便り編集委員にて審査しました)  
翌年も開催して欲しいという声もあり、訪れる人を温かく迎えるように光り輝き、見る者を幸せで包み込む「彩る冬の風物詩」として定着していくことを願います。(千田)



# 「浮田地区に 歌声が聞こえて来た！」



11月8日、16日、22日の  
三回「歌声サロン」が中内、  
浮田、毒沢の各公民館で開  
かれ、大勢の皆さんが集ま  
りました。



アコーディオン奏者の肥  
田葉子さん、リードの川上  
芳子さんのもと、発声練習  
体の中から出す声、高く広  
く歌声になり、さながらコー  
ラス隊の様でした。皆さん



も久しぶりに聞くアコーディ  
オンの音色は懐かしく思わ  
れたことでしょう。

メロディーに合わせて歌い  
続け体も心も温まり、体内  
掃除したごとく、さわやか



にさせてくれたひと時でし  
た。「身体を動かす」「声  
を出す」は、いい事ですネ。  
(二三)



# 小正月を祝う

浮田中央公民館と毒沢  
公民館で子ども会を交えて  
小正月行事が行われました。  
「なぜ、小正月にみずき団  
子を飾るのか？」など、公  
民館長からお話を聞いた後、  
みずき団子を作って飾り、  
餅つきをして、4年ぶりに  
皆でお雑煮やきな粉餅を食  
べました。



子どもたちからは「みず  
き団子をこねる所が難しかっ  
たけれど上手にできた」  
「久しぶりにみんなが集まっ  
て餅つきなど出来て良かった」  
「公民館の皆さん有難



うござ  
います  
と感想  
があり  
ました。  
(多)



### 地域の話題

## お店の名前は「楓の小路」です どっこいどっこい「最前」に!

昨年12月16日宮田にオープンした農家レストランを訪ねました。



「誰でも気軽に立ち寄って、ゆつくり食事やお茶を楽しんでもらえる(隠れ家)の様な場所になりたい」と話す店主の松田美紀男さん(68歳)は陸前高田市出身、奥さんと二人暮らしです。

50年余り東京で飲食業に携わった後、定年を契機に地方移住を決意し、各地を探しましたが条件に合う所が見つからないでいるうち、知人からの紹介があつて7年程前に宮田への移住を決めました。  
コロナ禍によって改築が進まず、予定よりだいぶ遅

れたそうですが「やっと開店できました」と笑顔で話されました。

店の名前は、玄関前の立木の景観から名付けました。ジョギングや釣り、バイクツーリングが若い頃からの趣味なそうですが、忙しく今は出来てないとの事でした。

これからは自分でも畑を耕し、地域農家の協力をもらいながら地産地消にも貢献したいとお話でした。地域唯一のレストランです。みんなで利用し応援しましょう。(浩)



営業時間 午前11時～  
定休日 月曜日

予約があれば夜間の営業も可能です

## シヤフルボード大会

令和6年2月3日「節分の日」に、浮田振興センター

第二ホールを会場に開催されました。今回8組16人の参加で、およそ三時間におたり熱戦が繰り広げられました。優勝は息の合った伊藤藤建夫さん・平野米夫さんペアが輝きました。「ペアが良かった。来年も頑張ります」とは、優勝者の声です。(郁)



### リレーエッセー

## 私の趣味

私は、自己紹介の機会がある時は、農業と漁業に勤しんでいますと半分冗談で話しております。

50年程になります。船釣りに通って今までの大物は真鯛で白子の入った10kgで1mでした。春はカレイ、夏はヒラメ、秋・冬はメバル真鯛等季節に合わせて釣りを楽しんでおります。特に、冬の魚は脂がのって美味しいです。釣り人の特権としてどんな魚もお刺身で頂くのが良いですね。しかし、最近は異常気象の影響でしようか、水温が高く季節に合った釣り物に変化しています。三陸の海にかつていなかった魚が(ふぐ、太刀魚、まだら等)多くなつて海も季節感が無くなつて来ております。近い将来三陸で熱帯魚が釣れるかも? 最近、残念なことは釣り仲間も高齢化により揃って釣りに行く事が大変になって来ております。健康であればこそ趣味が楽しく行えるのですね。(下浮田 日下宏明)

## ゆるゆると カントリーヘッジ (羊の生垣)

羊の草地に自生している1本のハンノキ。芽吹きに気づいたときから約15年、羊たちにかじられながらも生き延び、大きく育った。染色に昔から使われていた染料と知ってはいても、茶系は草地にある鬼胡桃で、グレー系はバラの葉で染まる、と染料ハンノキには気が向かなかつた。

高村光太郎がヤツカの森と呼んだ山荘辺りはハンノキが多い。この地に生まれる文化を夢見た光太郎のなかにあつた羊とハンノキの話からハンノキでの染めを提案された。

ハンノキの実・矢車附子を煮出し染めた。媒染をかけることでカーキ、黄土色に染まり、どちらもこっくりとした色合い。殊に黄土色が美しく、染めずきたままでもが悔やまれた。

草地に自らやってきた樹木ハンノキが、カントリーヘッジの大切な一員であることを知り得た、この冬。(山本実紀)

# 「凧を作って揚げるよ！」 教室」開かれるよ！」



日本の凧の会会員、太田求さん(東和在住)を先生に12月16日浮田振興センター2階で、凧作り教室が開かれました。

参加者10名は予め和紙に絵を描き持ち寄りしました。絵本を思わせる可愛い絵、豪華な花の絵、和紙いっぱい描かれた迫力のある絵、龍を題材にした物が4点と計9点が揃いました。

先生の凧の説明後、剣凧

の作成になりました。バランスに注意し、のり代の書き込み、竹骨ののり付け、張糸、糸目を付けて作成完了。

作成中の先生は大忙しでした。

雨で凧揚げは叶いませんでしたが、「パパと一緒に作れて楽しかった」「みんなの作品が見られて良かった」「又、お世話になりました」の感想が聞かれました。

(辰)



# 事務局だより 「遊局だより」

「今年の鬼はお父さんの顔」家族全員の厄を背負った人形は門口に立てられ一年間の家内安全を見守ってくれていると思います。

昭和52年発行の東和町史に2月8日の行事について掲載されています。

この日は八日団子、春祭とされ、厄年除けの意味で門口に鬼の面を書いて藁人形につけたものを立てる。

又は、「当春疫病退散祭りの事」等と書いたものを門口に立てる。この日を「人形まつり」または「春祭り」と称し前記の祝い行事をなしたる後、米の団子をつくり(小豆団子、お汁団子、或は胡桃をすってかける)食べる。(原文のまま)

近年ではこの行事を行う家庭もめっきり少なくなっていました。が、コロナウイ

ルス感染拡大という禍をきっかけに無病息災を願い、当コミュニティで人形を印刷し各戸配布して4年。今年も多くのご家庭の門口に人形が飾られていました。

ちなみに冒頭の言葉は鬼を書いてくれた事務員が実家の父を思って描いたこの事です。

(輝)



輝け！オラホの公民館大賞

## 順位発表

大賞	毒沢公民館	170 pt
2位	中内公民館	169 pt
3位	石宮公民館	155 pt
4位	太田目公民館	147 pt

# 編集後記

元旦、新年会後、ほろ酔い状態にいた中で能登半島地震の速報が流れました。日を追うごとに被害の大きさが報道される中、現地からのレポートと「普通の生活」が出来ている自分との、かけ離れた生活の差に愕然としました。

難しいことですが、「災害は必ずやってくる」、「自分の命、家族の命は自分達で守る」を胸に刻み、声を掛け合い災害に備え、過ごして行きましょう。

(辰)

- 編集委員長 平野 浩一(宮田)
- 編集長 山本 実紀(毒沢)
- 編集委員 山口 友恵(宮田)
- 千葉 三恵(中内)
- 多田 辰雄(上浮田)
- 千田 浩志(毒沢)
- 小田島賢志(下浮田)
- 渡辺 郁美(中内)
- 題字 千葉 稔(下浮田)
- 事務局 藤井 輝雄(中内)
- 小田島多賀子(下浮田)